

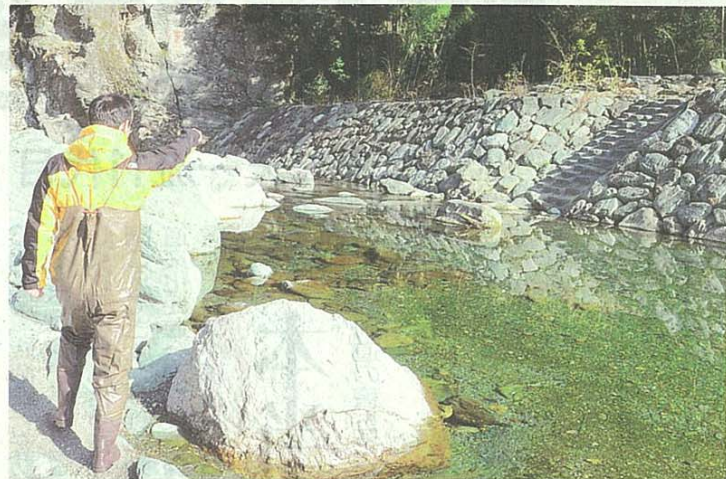
両親 引率教員ら告訴へ

安全対策を問題視

西条・加茂川 園児死亡

2012年7月、西条市中奥の「石鐘ふれあいの里」近くの加茂川で、西条聖マリア幼稚園（同市大町）の「お泊まり保育」中、増水した川に流され死亡した吉川慎之介ちゃん（当時5）の両親が近く、園の危機管理や対応に問題があったなどとして当時の園長を含む引率教員らを業務上過失致死の疑いで西条署に刑事告訴することが14日、分かった。同署は同容疑で関係者から事情を聴くなど捜査している。

吉川慎之介ちゃんが流された現場付近で、状況を説明する父親＝1月29日午前10時半ごろ、西条市中奥



「もう二度と…事実語って」

西条署などによると、事故は12年7月20日午後3時半ごろ、お泊まり保育の一環で、園児31人と引率教員8人が川遊びをしていた際、増水した川に慎之介ちゃんら園児3人が流された。慎之介ちゃんは約150以下流で沈んでいるのが見つかり、病院に運ばれたが死亡が確認された。

両親らが事故時に現場にいた園児や引率教員らから聞き取りをした結果、流されたのは園児4人と教員1人で、園側は浮輪やライフジャケット、ロープなど安全確保や救命に必要な用具を準備せず、急な増水など川の危険に対する認識も不足していたと判明。天候確認や避難経路の事

水遊びとはいえない

現場訪れ 父親憤り

「単なる川の増水による事故で終わらせることはできない。起こるべくして起きた『事件』で、二度と繰り返してはならない」。楽しいはずの「お泊まり保育」中にわずか5年の短い人生を閉じた吉川慎之介ちゃん。両親は原因究明と再発防止を強く訴え、告訴を決意した。

「ふれあいの里」近くの加茂川。園側は保護者への事前説明で「水遊び」と説明したが、両親が事故後に訪れると、平時でも大人の膝上ほどの深さの場所があちこちに。河床の石にはこげが生え、滑りやすい場所も散見。父親(43)は「到底水遊びとはいえない」と憤る。事故後は園側からの説明がない状況が続いた。園側は救

けられてはいるが、学校安全計画も作られていない。同園と園を運営する学校法人ロザリオ学園は「警察が取り調べ中なので何も話せない」としている。

命に必要な浮輪などを携帯していなかった点を認め、救命・救助活動の不備、増水に対する認識不足や天候未確認などの問題点も明らかにした。両親は「事前に十分な視察をしていれば分かったはず。なぜ危険への疑いも持たず、十分な準備もなく連れてきたのか」と疑問視し、これまでの園の対応に

は「単なる事故として風化させようとしている。きちんと謝罪し、事実を語ってほしい。このままでは大人の無知、無責任で子どもの命が奪われていく」と話す。

慎之介ちゃんは西条まつりを楽しみしていたという。両親はだんじりの後ろを追いかけていた。園側は「お泊まり保育」中、増水した川に流された。父親は「もう二度と…事実語って」と訴えている。



西条まつりが好きだったという吉川慎之介ちゃん（遺族提供）

前調査も怠り、救助活動も不十分だったとしている。

学校管理下の行事での事故を防ぐため、学校保健安全法で幼稚園を含めて作成が義務付けられている。

両親は「なぜ何も考えず何も持たずに平気でやったのか。子どもを命を守るという一番大切な部分」が欠落している」と話している。

同園と園を運営する学校法人ロザリオ学園は「警察が取り調べ中なので何も話せない」としている。